

目指す子ども像

- 健康で明るくあいさつのできる子ども
- 自分で考えて行動する子ども
- 友だちを大切にして協力し合う子ども
- 生命を大切にする子ども

- A：達成されている B：ほぼ達成されている
C：あまり達成されていない D：達成されていない

	目 標	評価	考 察
2 歳 ひよこ	・園生活を楽しむ	B	・基本的な生活習慣を身に付けながら教師や友だちとかわりを持ち、自分の好きな場所を見つけ元気に遊ぶ姿が多く見られるようになってきている。途中入園児が多く、そのお友だちが不安そうに教師の側につくと、出来ていたことも甘えてしまう姿はある。途中入園児も友だちや教師と一緒に過ごす時間を楽しめるようになり、笑顔も増えつつある。
	・自分でできることはしようとする	A	・個人差はあるが「自分でする」と言う姿が見られるようになってきている。中には教師に頼る姿もあるが、一緒に、又は、手助けをすることで出来た喜びを共感し認めることで自信につなげていくと、見てほしい気持ちから自分でしようとする姿が見られるようになってきた。
	・友だちに関心を持つ	A	・友だちといることが楽しく遊びの中ではけんかもあるが、友だちの名前を覚え言葉のやりとりをして遊べるようになってきている。友だちがいないと気にかけて探す姿も見られる。ごっこ遊びでは、みんなでなりきって遊ぶ姿が見られるようになってきた。
	・遊びを通してたくさんの気づきを持つ	B	・友だちとけんかをするとき悲しい、悔しいなどの感情が芽生えつつある。 ・園生活ではルールがあることも知り、順番を守ろうとしたり、譲ったりすることも出来る場面が増えている。園外保育や園庭で季節ごとに身近な自然に触れて、中には、花や虫に関心を持つ子も見られる。
3 歳 年少	・のびのびと体を動かして遊ぶ ・あいさつを返すことができる	A	・外遊びや園外保育、リズム遊びなど自分のやりたいこと、やってみたいことを見つけて遊ぶ姿が見られるようになった。 ・園生活に慣れると緊張もほぐれ安心して過ごせるようになり自然と挨拶が返せるようになっていく。
	・生活の仕方がわかり、自分のことをしようとする ・安定した気持ちで遊びを楽しむ	A	・しようとする意欲や取りかかりの起点はそれぞれだが、個々のペースで身の回りのことが出来るようになってきている。また、トイレトレーニングも完了し、着替えの際は衣服をたたみ、ロッカー(持ち物)の整頓もしようとする姿が見られるようになった。 ・傍に教師がいることで安心して遊びを見つけ、楽しく過ごしている。
	・好きな友だちと一緒に遊び譲り合ったり順番を守ったりすることに気づく ・相手の思いに気づき、簡単な言葉でやりとりができる	A	・友だちといることが楽しくなり、名前を呼び合い、おもちゃを共有して遊べるようになってきている。 ・子どものかわりが増えるにつれてけんかもあるが、相手に気持ちを伝えあえるよう、教師が仲立ちをすることにより、相手の気持ちに気づき、また落ち着いて遊びを展開している。
	・生き物には命があることを知り、大切にしようとする	B	・散歩で採ったおたまじゃくしを毎日観察しながら、「ご飯をあげないと」「水が汚れている」などの気づきがあり自分の生活と重ねてみているようだった。畑の野菜にも水やり、草取りを教師と一緒にやり、生長を喜ぶ姿があった。しかし、年間を通してもう少し、身近な生き物に触れる機会や気づきを与えられても良かったように思う。
4 歳 年中	・健康な生活に必要な習慣を再確認し身につける	A	・一人ひとりが喜んで登園し、自分の好きな遊びを見つけ親しみながら、安全な使い方を身につけることができた。 ・生活に慣れ、自分のことは自分でするなど生活習慣が身につけてきている。 ・戸外遊びに進んで参加し、全身を思い切り使って遊びを楽しむことができた。
	・自分の思いを話したり、友だちの意見も取り入れたりしながら、活動に取り組む	B	・友だちとのかかわりの中で自分の思ったこと、感じたことを友だちや教師に伝える姿が多く見られるようになった。次第に相手の思いにも気づくことができるようになり、それらを受け入れて遊び、互いに思いを伝え合えるようになった。しかし、中には、自分の思いが強すぎて友だちの思いに気づきにくくトラブルになることもある。
	・友だちとのかかわりを広げ仲間意識を持つ	A	・気の合う友だちと触れ合いながら遊びを楽しみ、少しずつ友だち同士約束を守って遊ぶことができるようになった。また、遊びの中で友だちとイメージを広げたり、一緒にやり遂げようとした姿が見られるようになった。
	・飼育栽培を通して生長・変化に感動し、生命の大切さを知り育てようとする	A	・夏野菜の栽培を通して育てることに興味と関心を持ち、収穫を楽しむことができた。また、米作り、さつま芋掘りなどの体験を通して、お世話になった地域の方や収穫物へ感謝の気持ちや、生き物に触れ生命の大切さにも気づくことができた。
5 歳 年長	・自分の体に関心を持ち生活に必要な習慣や態度を身につける ・様々な人と自然に挨拶を交わす	A	・生活習慣は身につけており、自分の物や共有の物が乱れていると気づいて進んで直そうとする姿が見られる。 ・教師との挨拶が習慣化されると、友だち同士でも自然と挨拶を交わす姿が見られる。
	・自分なりの目標に向かって頑張ろうとする ・友だちと考えを出し合いながら遊びを発展させていく	A	・運動遊びや伝承遊びなど、出来ないことがあっても諦めずに練習する姿が見られる。また、その姿を見て励ましたり教え合ったりしている。 ・イメージしたものを作ったり描いたりするときに、自分の思いを言葉で伝え合いながら協同で作り上げている。
	・仲間を大切に思う気持ちを持ち、いろいろな形で伝える ・友だちと同じ目的に向かって思いを伝えあいながら活動をすすめていく	B	・同じ目的をもって遊びを進めていくのに、自分の思いを伝えたり相手の意見を聞き入れたりできる様になっている。しかし、中には、けんかになって自分を正当化してしまうこともある。 ・様々なイベントに参加し、その都度みんなで力を合わせて作り上げてきた。中には、勝手な行動をとってしまう子がいたが、経験を重ねることで、自分がどうすべきか分かるようになってきている。
	・身近な小動物の飼育活動を通して生命の大切さを知る ・栽培活動を通して、栽培の大変さや喜びに気づくと共に地域の人に感謝の気持ちを持つ	B	・金魚やカメのえさやりを進んでしたりカメの冬眠について調べたりして友だちと協力して身近な生き物の世話ができた。 ・地域の人の協力で芋づくりの大変さ、収穫の楽しさを味わうことが出来た。ジャガイモや玉ねぎの収穫体験から食への感謝、野菜を摂る必要性、生きることについて気付かせてもらい、感謝の気持ちを持っている。しかし、秋以降、園内の環境で自然に触れる時間の確保が難しかった。

総合評価

評価	考 察
A	<p>総合的にどの学年もよく遊び、健康で楽しい園生活を過ごしているようである。2歳児は年度途中の入園が比較的多く、不安な様子も見られるが、概ね安定した生活であり、年少組は友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、年中組は様々な体験を通して食や命の大切さを感じ、年長組は仲間と協力して達成感を味わうことができ、それぞれの学年・総合的にみても達成されていることが分かった。</p> <p>子どもたちは園生活で友だちとかわり共に楽しみ、時にトラブルもあるが、相手の気持ちに気づき、喜びや悔しさなど様々な場面で感じ育っている。これからも、一人ひとりの育ちや個性を大切に家庭と連携した保育を進め、職員間では日々の保育を振り返り園児の共通理解のもと、よりよい環境で子どもたちの成長につながる教育を推進したいと考える。</p>